

生きる力へ誘う保育士の援助のスタンダード化 の実践研究「衣服の着脱篇」※

迫 田 圭 子 ※※

1 はじめに

平成18年3月発行の立正大学社会福祉学部紀要「人間の福祉」第19号「排泄篇」⁽¹⁾に引き続き、本稿は「衣服の着脱篇」をまとめることとする。非行、いじめ、不登校、家庭内暴力、虐待、養育放棄など現代の子どもを取り巻く家庭や地域社会の養育機能の弱体化が言われて久しいが、乳幼児期の養育の実際はどのようにすればいいかという提案が具体化された物がまだない。育児文化の伝承の欠落が言われながら、マニュアルや形式化を嫌う保育の土壌で長年具体化されてこなかった。しかし今の子育てに携わる子どもの親や保育者は、具体的方法と何故その方法をとるのかの説明を求めていると感じずにはおれない。本稿では筆者が長年携わってきた4つの保育園の保育士の保育内容のスタンダードをまとめ、順序化、具体化、標準化するものである。このビジュアル化し図表化したスタンダードを基にしながら、その根底に流れる、「育児・保育の基本法則」を構築し、子育て家庭や保育現場に育児・保育の楽しさやおもしろさ、ひいては育児を文化として感じ取るための一石を投じ、子育てしやすい社会を目指したいと考える。

2 社会生活能力自立の遅れ

子どもを取り巻く生活様式の変化や、生活文化の伝承の欠落に伴い、子どもの手指の機能は大きく遅れている。そのことは、昭和24年、牛島調査：牛島義友博士「社会的生活能力検査」⁽²⁾と昭和11年、山下調査：山下俊郎博士「幼児における基本的習慣の研究 一第1集一」⁽³⁾に対して、昭和60年と平成7年の2回の谷田貝調査：社団法人全国子ども会連合会と子どもの生活科学研究会（谷田貝公昭代表）「いま 子どもの手さばきは 一子どもの生活技術調査報告 一1」⁽⁴⁾との比較の中からも見えてくる。昭和60年と平成7年の子どもの間にはさほどの差は

※Practical study of standardization for support programs for a nurse to bring up children with 「Clothing On-Off」

※※Keiko SAKODA 立正大学社会福祉学部人間福祉学科助教授

キーワード：生きる力、スタンダード化、衣服の着脱、保育所保育指針

みられないが、牛島調査と谷田貝調査を、また山下調査と谷田貝調査の事例を比較することで述べたい。

「箸を使う」は昭和11年の山下調査によると3歳6か月で習得できているとされ、「箸を使うのは3歳6か月級の技術」と表現され、3歳6か月で70から75%が箸を正しく使って食事するという結果が出ている。スプーンやフォークなど欧米の食事用具が一般家庭に入っていない中で、例えば食事は箸で食べるもの以外考えられない時代であったとしても、3歳6か月で器用に箸を使うとは、驚きの研究結果であると言えよう。それに比べて平成7年の谷田貝調査では習得率の最も高い数値が出ているのは小学6年生児22.6%であり、幼少時期に箸を使うことは、自立とはほど遠い状態である。五味太郎が平成5年に福音館書店から出版した「正しい暮らし方読本：箸」が絵本で出されたことも、生活文化の欠如が進んだからであろう⁽⁵⁾。両調査の測定方法が同一条件でないが、筆者の教鞭をとる立正大学社会福祉学部の学生と食事をする、半数近い学生の箸の使い方の不自然さを感じることがある。この谷田貝調査の結果は推するに余りある。〔「自立」とは、同一年齢児の70から75%の者が満足（自立できる）したという意味である。〕⁽⁶⁾

筆者は長く保育に携わってきた日常的な経験から2歳6か月頃から3歳になる頃の子どもは箸に興味を示しその使い方を習得していく時期である。その時期がモンテッソーリでいう敏感期⁽⁷⁾と言えるであろう。その敏感期の大人の援助や子どもの体験が、無理なく、無駄なく箸を使うことを学習させ、就学までにほとんどの子どもが習得していく。その経験からみると70年前の山下調査は推測の範疇に入るし、箸への興味関心はむしろ2歳6か月ころからで、山下調査より早くなっているとも思える。しかし、今日の日本の生活文化の中で、箸を使うことが消滅しつつあるのは、箸への興味関心が途中で切れてしまう、途絶えてしまう生活様式の変化があると思われる。箸を正しく使う人は稀にみる存在となりつつある。

本稿のテーマである衣服の着脱に関わる「ボタンをかける」「ひもを結ぶ」を前記2つの調査で比較してみよう。「ボタンをかける」は山下調査によれば4歳で習得するのに対して、平成7年、谷田貝調査では衣服の前の部分のボタンを、小学1年生男子はまだ習得できていない。「ひもを結ぶ」は牛島調査によれば4歳級の技能とされ、習得出来ているのに対し、平成7年の谷田貝調査では最も成績のよい数値で、前の部分の花結びが小学6年生で52.8%である。上記「箸を使う」同様、着脱の基本も日本の生活文化から消滅しつつあると思われる。

人間が古代に習得した建設的技法のなかで火を使うことと、紐を編み、その紐を結ぶことが代表的なものである。紐は2つの物を組み、時には離し、分ける事のできる動作である。衣服に使用される紐は、脱ぐ、着るという主要動作の中に、古代からどの民族にも組み込まれていた。その動作は紐を解き、紐を結ぶものである。今やその技法は失われようとしている。

山下調査を行った昭和11年には子どもはどのような衣服を着ていたのだろうか。明治から大正を経て、帯や紐を結んだり解く和服から洋服への転換が進む中で、昭和7年の白木屋火災の大惨事の犠牲者の多くが、着物の裾が強風にあおられ、それを気にしてロープから自ら手を離

して転落死したことを機に、下着の着用が進み、園児服は白いエプロンとたっぶりのズロース、靴下にズックという姿になった。この白いエプロンは後ろで大きく花結びにすることと、肩などをボタンで留めることで身につけるものである。花結びが日常化されていたと言えるであろう。また、昭和10年代の学童服は、隊服にならい前の打ち合わせ部分に5、6個の小倉の金ボタンの付いたものが急激な需要を示し、洋服が主流となってきたことと、学童服の既製品化が進み、市販された。それまでの子ども服は家庭内で親や家族の服の仕立て直しで作られ、そのデザインは紐を結ぶ・ボタン留めをするなどの簡易な仕立て方の衣服であった。当時「ひもを結ぶ」ことは日常の着脱に欠くことの出来ない所作であったことがうかがえる。

昭和30年から40年代の高度経済成長時代は、繊維にナイロンが衝撃的にデビューし、イメージア性に加え、丈夫で軽く、活動的な子ども服が大量生産、大量販売される本格的な既製品時代を迎えた。代表的なメーカーとしては、ファミリア、ミキハウス、オンワード樫山、ナルミヤ・インターナショナルなどである。これらのメーカーの製品はミキハウスこそ赤と黄色のカラフルな大きなボタンをポイントにしたデザインであったが、他のメーカーはおしゃれ感覚に富み、ファスナーやホックを多く使用し、「ひもを結ぶ」などの所作がすっかり消えていったといえる。

現代はユニクロやインターネットショッピングなどが良質かつシンプルなデザインで、安値のものという消費者ニーズに応えている。そのデザインはTシャツなどのようにボタンや止め金具等がなく、ゴムやマジックテープで着脱が出来るなど、伸縮性のある布を使用し、体に簡単に着衣出来るものがほとんどである。このようにボタンかけや紐を結ぶ経験が、幼児期の衣服の着脱の所作からなくなり、着脱の簡単さが最優先したデザインに大きく変革して今日を迎えている。谷田貝調査でみる今日の子どもの手指の機能の低下、社会生活能力の低下は、こうした衣服の変化が要因の1つであろうと筆者は考える。

3 基本的生活習慣の習得の援助

習慣とは毎日の生活を良好に過ごすための、ほとんど無意識に繰り返す一連の行為であると言える。アメリカの発達心理学者のゲゼルのいう文化適応⁽⁸⁾であり、身体機能や心理的発達との関連が習慣獲得にはある。先に述べた「箸を使う」や「ボタンをかける」などの習慣は手指の発達とともに自立性ひいては人格の発達にも影響するといえよう。

子どもが身につけることが望まれる食事、排泄、睡眠、清潔、衣服の着脱の5つが基本的生活習慣であり、それらには大きく2つの要因が組み込まれている。一つは生理的要因の生活習慣で、食事、睡眠、排泄は生理的要因が主である。もう一つは文化的、精神的要因が含まれる生活習慣で、清潔と衣服の着脱が主にこれである。前原稿「排泄篇」では、例え乳児であっても生理的に自らこみ上げる欲求を解決するための習慣であるとともに、一人の人間として社会に受け入れられるための、最低遵守しなければならないライフラインの規律であることを示し

た。また本稿の「衣服の着脱篇」は、子ども自らが着替えたいと欲求が起きるのではなく、着脱の習慣を習得した子どもだからこそ衣服を汚さない配慮をし、汚れたときは自ら着替えようとする欲求が出てくる習慣であることを示している。こうした文化的、精神的習慣は、習得することで自分自身を円満に、自分を自分らしく、すがすがしさを得る習慣と言えるのではないだろうか。生理的要因と文化的、精神的要因を合わせ持つ基本的習慣を身につけることで、手指、諸機能などの身体的発達を益々促すと共に、自分でしたい、出来たといった心理的発達を促し、身体も心も自立へと進む発達過程を保育者は認識することが大切である。その結果として子どもの生理的満足と、社会に受容され、円満にしかも自分らしく、すがすがしく生きる力へと誘う保育者の援助が求められると思われる。

ゲゼルの言う文化適応つまり、人間らしい生活を展開し、自立していくための前提となる態度や技能を獲得していくことが、今日益々大切になってきていると思われる。前述した社会的能力の自立の遅れの見られる今日、より意図的に、計画的に基本的習慣を展開することが求められている。ましてや文化的、精神的習慣は子ども自身の欲求が湧き出てくることで習得していくものではないため、全て大人の養育態度に委ねられている。ボタンが留められない、顔を洗おうとしない、汚れた衣服を着替えようとしないなど、大人の無関心、無秩序、溺愛や逆に愛情の欠如、生活リズムの乱れなどの理由で、乳幼児期の感受性の芽を摘み、習慣として確立できない子どもを成長させることは、豊かな生活文化を有していた日本の民族のアイデンティティーの欠落に成りかねないと考える。

4 前稿「排泄篇」との関連

本稿「衣服の着脱篇」では前稿「排泄篇」を引き継ぎ、保育所保育指針の「保育の内容」を分析し図表化し、養護と教育の一体化の基での保育者の援助の3つのゾーンの実際を写真と説明文でスタンダード化しようとするものである。そうすることで「衣服の着脱」をはじめとする基本的生活習慣の習得の基本法則のメカニズムを構築し、提案するものである。

- ・「発達に沿った援助のゾーン」の図表は「排泄篇」と同じとする。 図表1
- ・「自立へのステップを指針の内容から捉える」の図表は「排泄篇」を「衣服の着脱」の内容に新たに組み替える。 図表2
- ・「ゾーンの認識」は「排泄篇」と同様であるが、それぞれのテーマは「衣服の着脱」の具体的なテーマに置き換える。例えば「排泄篇」のゾーン2「排泄のサイン・トイレ見誘う、失敗と成功の繰り返し」を「衣服の着脱」では「衣服の着脱を促し、・・・」と下記のようにする。

ゾーン1：愛情とお世話のゾーン 「衣服の着脱の保育者の世話（1か月から1歳3か月頃まで）」

ゾーン2：安全基地で興味を広げるゾーン 「衣服の着脱を促し、手伝う。靴の着脱を促

し、手伝う（1歳3か月から3歳頃まで）」

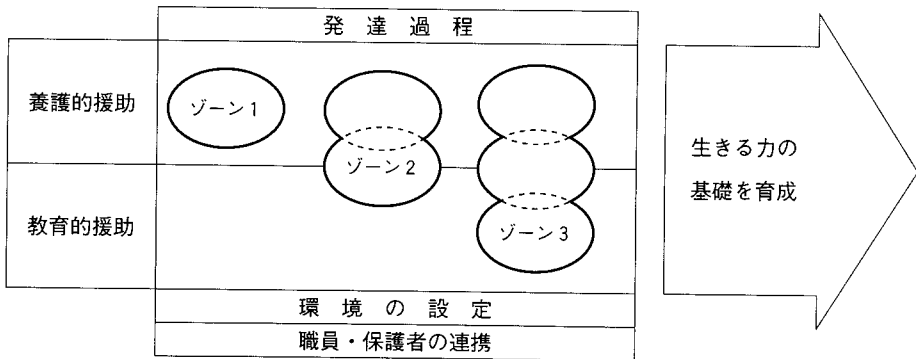
ゾーン3：自分で考え自分でできるゾーン 「自分で上着を着る，ボタンを掛ける，上着を脱ぐ，たたむ（3歳から就学まで）」

- ・「排泄篇」で行った3つのゾーンの写真の説明文に加える， カテゴリーとその識別アンダーラインは，本稿では省くこととする。

5 養護と教育の一体化を表すゾーンの作成

また，保育指針第2章子どもの発達2では「発達とは，子どもが心身の自然な成長に伴い，それぞれの子どもに応じた自発的，能力的な興味，好奇心や，それまでに身につけてきた知識，能力を基にして，生活環境内の対象へ働きかけ，その対象との相互作用の一結果として，新たな態度や知識，能力を身につけていく過程である。」^⑨とある。図表1は，大人の養護的援助，世話「ゾーン1」が保障されてこそ，ある日，ある頃愛されている大人という心の安全基地の中で探索を始め，興味・感心がグンと芽を吹き始める時期の活動「ゾーン2」へと向かい，ついには大人の教育的援助のもとで子ども自らの生活を創りだし，他者にも思いを馳せる自立「ゾーン3」へと展開していくステップを図表化したものが図表1である。

図表1 <発達にそった援助のゾーン>



6 「衣服の着脱」と保育所保育指針の保育の内容

保育所保育指針の8つの発達過程区分のそれぞれの保育の内容の「内容」部分で「衣服の着脱」に関わる部分をピックアップし，そのそれぞれの項目が上記ゾーン1，2，3のいずれに属しているかを記してみた。☆印は「ゾーン1」，★印は「ゾーン2」，◎印は「ゾーン3」である。指針の「内容」の項目が「保育士主体の表現がされているもの」を☆印にし，「保育士の援助のもとで子どもが～～～ができるよう……」などの表現が加えられているものを★印にし

た。また「子どもに望まれる心情・意欲・態度の主體的体験」は◎印として分類した。では具体的分類事例として、6か月から1歳3か月未満児の場合と、5歳児の場合を下記に挙げてみる。

6か月から1歳3か月未満児

内容

- ☆一人一人の子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。
- ☆一人一人の子どもの心身の発育や発達の状態を的確に把握する。
- ☆体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。
- ☆一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により気持ちのよい生活ができるようにする。
- ☆★一人一人の子どもの排尿間隔を把握しながら、おむつが汚れたら、優しく言葉をかけながらこまめに取り替え、きれいになった心地よさを感じることができるようにする。
- ☆室内外の温度、湿度に留意し、子どもの健康状態に合わせて衣服の調節をする。

5歳児

内容

〔基礎的事項〕

- ☆★一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切な対応をする。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
- ☆施設内の環境保健に十分に留意し、快適に生活できるようにする。
- ☆★一人一人の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育士との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるなど、情緒の安定した生活ができるようにする。
- ☆★食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。

「健康」

- ◎自分で衣服を着脱し、必要に応じて衣服を調整する。
- ◎うがい、手洗いの意味が分かり、体や身の回りを清潔にする。

「人間関係」

- ◎人に迷惑をかけないように人の立場を考えて行動しようとする。
- ◎共同の遊具や用具を譲り合って使う。
- ◎異年齢の子どもとの関係を深め、思いやりいたわりの気持ちを持つ。

「環境」

- ◎身近にいる大人が仕事をしている姿を見て、自らも進んで手伝いなどをしようとする。
- ◎身近な物を大切に扱い、自分の持ち物を整頓する。
- ◎生活の中で物を集めたり、分けたり、整理したりする。

◎生活の中で、前後、左右、遠近などの位置の違いや時刻、時間などに興味や関心をもつ。

「言葉」

◎生活に必要な簡単な文字や記号などに関心を持つ。

「表現」

◎様々な音、形、手触り、動きなどを回りのものの中で気付いたり見つけたりして楽しむ。

◎自分で想像したものを体の動きや言葉などで表現したり、興味を持ったり話や出来事を演じたりして楽しむ。

下記の図は保育所保育指針の発達過程 8 区分の中で、「衣服の着脱」に関わる「内容」を 3 つにゾーン☆★◎印でまとめた図である。「内容」の番号や、3 歳児以降の「内容」の基礎的事項の番号及び、5 領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の番号を記しながら、図表 1 上に載せた。（図表 2）

図表 2 <「衣服の着脱」の自立へのステップを指針の「内容」から捉える>

		6 か月未 満 児	6 か月から 1 歳 3 か月 未満児	1 歳 3 か月 から 2 歳児 未満児	2 歳 児	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	6 歳 児
		発 達 過 程 区 分							
養 護	ゾーン 1 ☆	☆ (1) ☆ (2) ☆ (3) ☆ (4) ☆ (8) ☆ (10) ☆ (11)	☆ (1) ☆ (2) ☆ (3) ☆ (4) ☆ (7) ☆ (9)	☆ (1) ☆ (2) ☆ (3) ☆ (8) ☆ (10)	☆ (1) ☆ (2) ☆ (3)	☆ 基(1) ☆ 基(2) ☆ 基(3) ☆ 基(4)	☆ 基(1) ☆ 基(2) ☆ 基(3) ☆ 基(4)	☆ 基(1) ☆ 基(2) ☆ 基(3) ☆ 基(4)	☆ 基(1) ☆ 基(2) ☆ 基(3) ☆ 基(4)
	ゾーン 2 ★		★ (7) ★ (10) ★ (14)	★ (8) ★ (11) ★ (12)	★ (7) ★ (8) ★ (9)	★ 基(1) ★ 基(3) ★ 基(4) ★ 健(4) ★ 健(5)	★ 基(1) ★ 基(3) ★ 基(4)	★ 基(1) ★ 基(3) ★ 基(4)	★ 基(1) ★ 基(3) ★ 基(4)
	ゾーン 3 ◎				◎ (10)	◎ 健(4) ◎ 人(1) ◎ 人(4) ◎ 人(6) ◎ 環(2) ◎ 環(5) ◎ 環(6)	◎ 健(2) ◎ 健(4) ◎ 健(5) ◎ 環(2) ◎ 環(3) ◎ 環(4) ◎ 環(8) ◎ 環(10) ◎ 表(6)	◎ 健(4) ◎ 健(5) ◎ 人(5) ◎ 人(8) ◎ 環(4) ◎ 環(6) ◎ 環(9) ◎ 表(1) ◎ 表(4) ◎ 表(6)	◎ 健(4) ◎ 健(5) ◎ 人(4) ◎ 人(7) ◎ 環(3) ◎ 環(6) ◎ 環(9) ◎ 表(1) ◎ 表(4)
教 育		環 境 の 設 定							
		職 員 ・ 保 護 者 の 連 携							

図表2をとおして、保育所保育の衣服の着脱への自立へむけた望まれる体験のプロセス、つまり保育所に通う全ての子どもが保育士の養護を十分に受けながら、次第に子ども自ら体験することが望まれる、心情・意欲・態度という教育へと広げ、本稿のテーマである「衣服の着脱」の援助が子ども自身の生きる力の基礎を育む「内容」、言い換えれば先に述べた「育児・保育の基本法則：ゾーン1からゾーン2へ、そしてゾーン3へと大人の援助で進む」ことが浮かび上がってくると思われる。

7 援助の実際を写真と説明文でスタンダード化する

下記の実践写真と説明の文章は、筆者は運営する4つの保育園¹⁰⁾の「自園の保育システム」¹¹⁾の「衣服の着脱」を作成するに当たり、衣服の着脱に関する保育者の援助の実態調査をし、ゾーン別に写真と説明文でシステム化し、平成15年に作成した。このシステムは4園の保育サービスのスタンダードとなり、150名を越える職員が研修を重ね、日々保育実践し、その結果を評価・反省をしたものを今回筆者が改訂し、本研究で使用することにする。写真と説明文を付すことで、衣服の着脱の自立への誘いを援助の実際をとおして明確にしようとするものである。

また本研究では、3つのゾーンに加え、乳幼児の豊かな着脱の体験を経験するために、「衣服の着脱」につながる遊び感覚で体験する教材研究も写真と説明文で展開する。海外の市販の玩具や、筆者が創作した手作りおもちゃを本稿で発表することとする。子どもの衣服についてのボタンやホックで習得するのではなく、教材を通して遊び感覚でボタンやホックに触れ、紐を結ぶ体験なども含めて考案したものである。

＜ゾーン1：愛情とお世話のゾーン＞衣服の着脱の保育者の世話（1か月から1歳3か月頃まで）



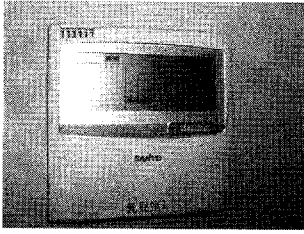
1. 丁寧な着替え



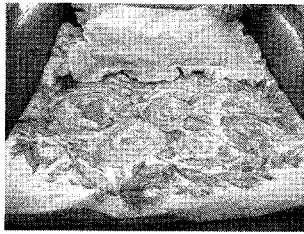
2. 着替えのタイミング



3. 着替えはコミュニケーションの場



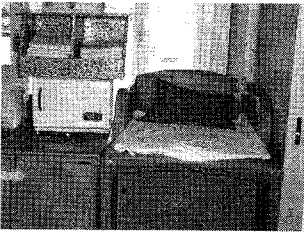
4. 室温の調整



5. 着替えの交換台



6. 衣服を準備し安全に



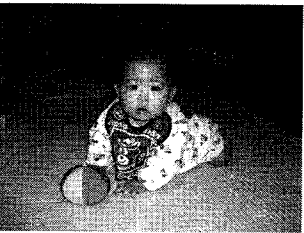
7. 安全で落ち着いた場所



8. 清潔な衣服の保管



9. 汚れ物入れの引き出し



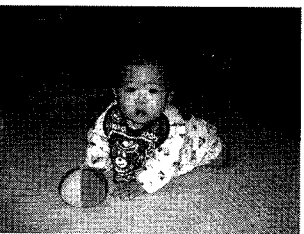
10. 衣服の選び方



11. 衣服の調整と目安



12. 生活や活動による調整



13. 個人差のある調整



14. 着せすぎに注意



15. 着替えの援助



16. ボタンやひもをはずす



17. 重ねたまま袖を抜く



18. 脱いだ衣服を取り去る



19. 上着を着る



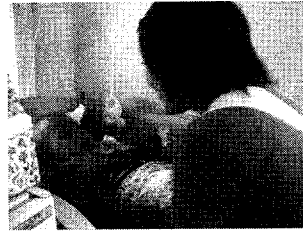
20. ひもやボタンを留める



21. 心地よさを伝える



22. かぶりの下着や上着を脱ぐ



23. スムーズさは安全さ



24. ボタンやひもをはずす



25. 上着を胸の所まで上げる



26. 腕を抜く



27. いらないないバアー



28. 衣服を取る



29. かぶりの下着や上着を着る



30. いらないないバアー



31. 腕を通す



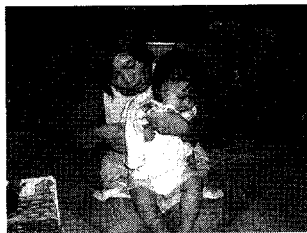
32. 背中 of 服のしわ



33. ボタン留め



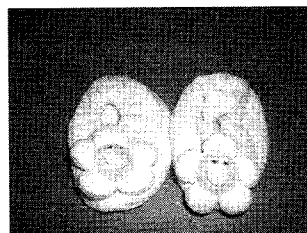
34. きれいになったね



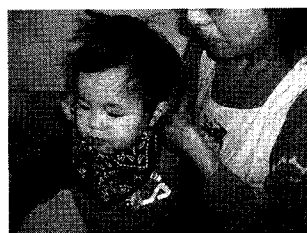
35. 座れるのなら膝の上で着替え



36. 立てるのなら肩を持って着替え



37. 靴下と靴下カバーを履く



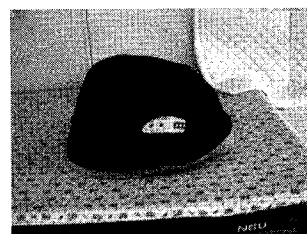
38. よだれかけを付ける



39. 戸外の遊び着の利点



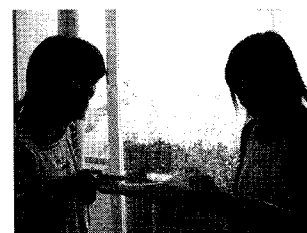
40. 戸外遊びを終えたら



41. 帽子の必要性



42. 職員間の共通理解



43. その都度の確認



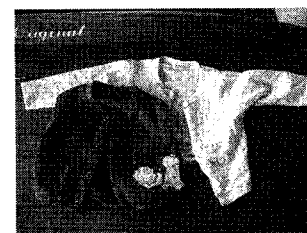
44. 看護と保育の連携



45. 個人の衣服の管理整頓



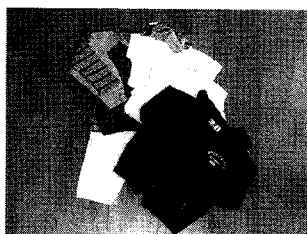
46. 成長に合った衣服



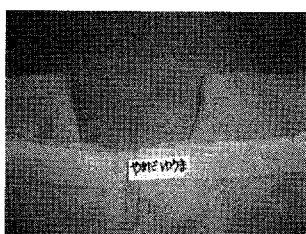
47. 春秋の衣服



48. 夏の衣服



49. 冬の衣服



50. 1枚1枚に名前



51. 汚れ物の持ち帰り

『ゾーン1：愛情とお世話のゾーン』の説明文

衣服の着脱の保育者の世話（1か月から1歳3か月頃まで）

<基本的な考え方>

- 1 「丁寧な着替え」①乳児の肌はとてもデリケートである。優しく丁寧に身体に触れながら着替えを行う。②首が据わっていないので、寝た状態で着替えを行う。手足を引っ張ったりすると関節が外れやすいので注意をする。③手足はむしろ締めさせながら袖などに手を通していく。
- 2 「着替えのタイミング」①汚れたらすぐに着替えさせる。②乳児は自分から着替えたいと訴えることはない。保育者は訴えがなくても乳児の身に立った着替えが求められる。③健康的に過ごすためには勿論のこと、快不快の感覚を養うために、こまめな衣服の調節が大切である。
- 3 「着替えはコミュニケーションの場」①着替えをコミュニケーションの場と捉え、一人一人との大切な時間とする。②保育士は無言で着替えさせるのではなく、優しく語りかけたりあやしたり、歌を歌いながら乳児との触れ合いを大切にする。③着替えは乳児の肌に保育者の手が直接触れるため、保育者の手は清潔でかさつきがないようケアし、冷たい状態では触れないようにする。勿論爪は短く切っておく。

<環境の設定>

- 4 「室温の調整」①裸になっても寒くない室温にする。
- 5 「着替えの交換台」①着替えを行う台には汚れる度に、取り替えの出来るタオルなどを敷き、常に清潔にしておく。②子どもの着替えは、床の上よりも台の上の方がゆっくりと触れ合いながら出来る。
- 6 「衣服を準備し安全に」①着替えに必要な物は事前に揃えておく。②乳児を交換台に乗せてから足りない物を取りに行かない。落下事故につながる。③着替え一式を個別にゴムなどでまとめて留めておくと混乱がない。④袖口などゴムを使っている物はきつく締め付けすぎではないかどうかを確認する。

- 7 「安全で落ち着いた場所」①着替えは安全で落ち着いた場所で行うようにする。②交換台の上で行うのは、着替えの途中で他児が近づいたり、おもちゃなどが落ちてこないようにするためである。
- 8 「清潔な衣服の保管」①個別の専用の引き出しを準備する。②清潔な衣類をたたんで保管する。③中の衣類は家庭との連携をはかりながら、必要な衣類を十分に揃えてもらう。④引き出しは定期的に消毒し、清潔を保つ。
- 9 「汚れ物入れの引き出し」①汚れ物入れの引き出しを個別に用意する。②汚れた衣類はビニール袋に入れて引き出しに入れる。③引き出しの中身は毎日家庭に持ち帰ってもらう。④引き出しは定期的に消毒し、清潔を保つ。⑤引き出しは水洗いの出来るプラスチック製の物が、衛生的に管理しやすい。

<援助の方法：1 か月から4 か月未満児>

- 10 「衣服の選び方」①この時期は首がまだ据わっていないので前開きの衣服が適している。②乳児の健康を保持するために、毎日清潔で心地のよい衣服で生活できるように心がける。③肌着は肌を傷めないように縫い目を表側、つまり外側になっているものを使う。寝返りが出来ない時期は、縫い目や布のしわなどが肌を傷める。④吸湿性のよい木綿素材のものがよく、化学繊維はアレルギーを起こすことがある。
- 11 「衣服の調整の目安」①調整はこまめに行う。②動きが少ないので、大人より1枚多い衣服を着せる。③体温調整が上手に出来ないので、気温、室温、体調に合わせたこまめな調整が必要となる。④背中に手を当てると汗ばんでいる場合がある。その時は薄目の衣類に替えたり、1枚減らしたり、素材を変えたりする。⑤手の指がくるまれた衣服は避ける。体温調整がしにくい。
- 12 「生活や活動による調整」①環境や活動によって衣服を調整する。②室内と戸外に温度差がある時は、1枚多く着せたり脱がせたりして調整をする。③朝、日中、夕方と気温差に応じて調整をする。④くつ下、おかけ、帽子などを付けることも調整の要素となる。⑤日の当たり方や風の強さで体感温度は大きく変化するので注意する。
- 13 「個人差のある調整」①一人一人に合った衣服の調整をする。②汗をかきやすい、風をひきやすい、など体調に合った調整をする。
- 14 「着せすぎに注意」①着せすぎは手足などの自由な動きを妨げることとなる。②手足が冷たくても顔がよく、機嫌が良いときはしばらく様子を見る。
- 15 「着替えの援助」①脱がせるときは「おきがえしようね」と声を掛け抱き上げ、笑顔で着替えに誘う。②出来るだけ乳児にとって親しみを感じている保育者が行うようにする。③「ごろんしようね」と首を支えながら交換台に寝かせる。④腰からゆっくりと寝かせる。
- 16 「ボタンやひもを外す」①上着から順に外していく。②ボタンやひもが外れかけていたら、脱いだ後で修理することを覚えておく。
- 17 「重ねたまま袖を抜く」①上着、肌着と一緒に重ねたまま腕を抜くようにする。②乳児の

ひじを優しく内側に曲げて支えながら、保育者のもう片方の手で袖を引くように抜き取る。

③乳児の両手を袖から外す。

18 「脱いだ衣服を取り去る」①保育者の片手で首を支えながら少し持ち上げ、衣服を片方に寄せる。②首と背中を支えながら、片方の手で衣服をそっと抜き取る。③肌に傷や虫さされなどがいないことを確認する。④ゴムなどで肌が傷んでいないかを確認する。

19 「上着を着る」①上着を着るときは着ようとする衣服の上に寝かせる。②肌着の袖は予め上着の袖に通しておく。③片方ずつ袖を通していく。②保育者の両手を上手く使い、乳児の手を袖に通しながら、もう片方の手で乳児の手を迎えるようにして袖に手を通していく。

20 「ひもやボタンを留める」①中の衣服から順にしわを伸ばしながら、丁寧に紐やボタンを掛けていく。

21 「心地よさを伝える」①袖が中でたまっていないか確認する。②「お着替えできたね。気持ちいいね」など笑顔で話す。③着替えがさっぱりと気持ちがいい状態であることをその都度話していく。

<援助の方法：4か月から1歳3か月未満児>

22 「かぶりの下着や上着を脱ぐ」①優しく抱き上げながら着替えに誘う。②オムツ替えなどの続きで着替えを行う場合は交換台の上で継続して行う。

23 「スムーズさは安全さ」①乳児が怖がらないようにゆっくりと交換台に寝かせる。②手におもちゃを持たせると、着替えをスムーズに進めることができる。③交換台からの落下事故にならないためにもおもちゃが効果的である。④首が据わっていても頭の後ろに手を添え、手足の関節は強く引くと、捻ったり、傷つけることとなる。

24 「ボタンやひもを外す」①ボタンを外しながら「きれいにしようね」など言葉を掛け、着替えを作業のように行わない。

25 「上着を胸の所まで上げる」①胸の所までたくし上げる。

26 「腕を抜く」①乳児のひじを持って、反対側の手で袖をひく。②片方ずつ丁寧に抜く。

27 「いないいないバアー」①首の所までまとめた上着を顔の方から頭の上に伸ばしながら抜いていく。②前が見えない一瞬であり、すぐに終わることを、「いないいないバアー」と明るく遊び感覚で言うことで安心させる。

28 「衣服をとる」①片手で頭を支えて持ち上げながら、もう片方の手で衣服を取り除く。

29 「かぶりの下着や上着を着る」①上着を襟ぐちにまとめ、頭が通りやすいように広げる。

②オムツ替えなどの続きで着替えを行う場合は交換台の上で継続して行う。

30 「いないいないバアー」①おでこ位までかぶらせ、片手で頭を支え、もう片方で顔の方から衣服をくぐらせ首まで通す。②「いないいないバアー」と言いながらすると、乳児もその一瞬を我慢することができる。③首の所に衣服が溜まるようにする。

31 「腕を通す」①片手で乳児のひじを持ち、もう片方の手で袖口から乳児の手を迎え入れるようにして通していく。②片方ずつ丁寧に行う。③ひじを捻らないように、また腕を引っ張

- らないようにする。肘などの関節を外しやすいので、無理な力をかけない。
- 32 「背中の服のしわ」①衣服のしわを伸ばしながら、衣服を下に下げていく。
- 33 「ボタン留め」①ボタンを留めながら乳児に話しかけ、保育者とのコミュニケーションの時間とする。
- 34 「きれいになったね」①乳児は気持ちよくなったと感じても、自らそれを表現することはない。保育者が着替えた後のこの状態が心地のいい状態であることをその都度伝えることで、次第に快不快が感じ取れるようになるので、必ず着替えの度に「きれいきれいね」「いいきもち」など伝え、感覚の共感をしていく。
- 35 「座れるのなら膝の上で着替え」①おむつ交換の続きでなく、着替えだけを行う場合は保育者の膝に座らせて行うのが遊びの流れとして着替えをすることが出来る。②保育者の膝に二人羽織のようにして座らせると、乳児の視界は保育室を眺めることが出来る。③保育者は後ろから着せていくが、乳児の右手に保育者の右手が、乳児の左手に保育者の左手が添えることが出来るので、両者の動きに無理がなく、二人で一緒に着替えている感覚になれる。
- 36 「立てるのなら肩を持って着替え」①掴まり立ちが出来るのなら、パンツやズボンなどは膝の上で足を通してから立たせるとスムーズに履ける。②大人の肩や近くの棚などにつかまり立ちをさせると安心して着替えることが出来る。
- 37 「靴下と靴下カバーを履く」①靴下や靴下カバーは転倒防止を配慮し、足の裏に滑り止めが付いているものにする。②靴下に滑り止めが付いていない場合には、必ず滑り止めの付いたカバーを重ねて履かせるようにする。
- 38 「よだれかけを付ける」①衣服を汚さないために使う。②よだれかけが濡れればよだれかけだけを取り替えることができる。③よだれの多い子どもには1日3枚以上が必要。④睡眠時は顔に当たらないようにするために外す方がいい。濡れているまま付けていると皮膚のかぶれとなる。⑤睡眠中の寝返りでうつ伏せになったり、ハイハイで動く子どもには背中でもひもを結ぶよだれかけが良い。⑥首の所にひもを結ぶ時は子どもが動いていると、きつく締めすぎるなど危険である。大人の指2本が入るくらいの余裕をもたせて結ぶようにする。
- 39 「戸外の遊び着の利点」①歩行が完全に習得出来ない0から1歳児は、夏期以外の戸外遊びの時にフルオーバーの遊び着を付けるようにする。天候や季節に合わせて遊び着の下に着る衣服を調節する。②汚れを気にせず遊ぶ。③座り込んで遊んでも砂や土が衣服に入らない。③登る、降りる、滑る、くぐるなど全身を使ってダイナミックに遊んでも、衣服が引っ掛かるなどの危険がない。
- 40 「戸外の遊びを終えたら」①室内に入る場合、外で砂や泥をはらって、汚れを落としてから脱ぐようにする。②ポケットや足の裾に砂が入っていることがあるので、はらってから入室をする。
- 41 「帽子的必要性」①戸外に出るときは暑さや紫外線の防止のために帽子をかぶるようにする。②頭部の安全の補完のためにその都度かぶるようにする。③通気性のある、洗濯の出来

る素材にする。汗や汚れは想像以上である。④つばのあるもので、ゴムが付いているものを選択するように保護者に薦める。

<スタッフ間の連携>

42 「職員間の共通理解」①月案の会議やミーティングで一人一人の着替えの援助の方法について話し合い、共通理解出来るようにする。②着替えは愛着関係を築く大切な援助である。担当制のもとで出来るだけ同じ保育者が担当する。また着替えの度に「きもちよかったね」など心地よさを言葉に出すようにする。③家庭で着衣させてくる衣服が日常的に汚れていないか共通理解をはかる。

43 「その都度の確認」①一人一人の体調や体質に合った衣服調整が適切に行えるように、スタッフ間の連絡、確認、相談、報告をその都度行うようにする。

44 「看護と保育の連携」①着替えは子ども一人一人の全身の身体の状態を確認する機会となる。キズ、湿疹、アザなどを発見したら看護師、園長などの管理者に見せる。②アトピー性皮膚炎などの個別の対応は、嘱託医、看護師、保育士、栄養士などの共通理解としておく。

45 「個別の衣服の管理、整頓」①衣服の管理は確実なものとしておく。②衣服を引き出しやロッカーに片付ける時は、名前などを確認する。他児の物が混ざらないように注意する。③誰の衣服か分からなくなった場合は、その日の内に職員間で伝え合い、解決をする。衣服は翌日になってからの解決は非常に難しい。④清潔な衣服と、汚れ物が混ざらないようにする。

<家庭との連携>

46 「成長に合った衣服」①子どもの成長、動き、その日の体調などを伝え、子どもに合った衣服を準備してもらう。②園での様子などを伝え、衣服の補充や不足している物について声を掛ける。③汚れ物の多い日にはどのような活動をしたか、など詳しく丁寧に伝える。

47 「春秋の衣服」①調整しやすい物を1枚加えるとその都度変更出来る。②日によって暖かかったり、涼しかったりするので、ベスト、カーディガンなどがあると便利である。③1か月から4か月児は靴下の着脱だけでも調整になる。④1か月から4か月児はタオルケットやおくるみを使うと調整が出来る。

48 「夏の衣服」①汗をかくなど新陳代謝の激しい季節なので、衣服は多めに準備してもらう。

49 「冬の衣服」①ゆったりとしたコートを準備してもらう。②帽子をかぶることで、調整になる。

50 「一枚一枚に名前」①名前を書くことは手間のかかる作業である。保護者にこまめな作業を依頼する。

51 「汚れ物の持ち帰り」①汚れ物はその日のうちに持ち帰り、翌朝清潔な衣服を補充してもらう。

＜ゾーン2：安全基地で興味を広げるゾーン＞ 衣服の着脱を促し、手伝う。靴の着脱を促し、手伝う（1歳3か月から3歳頃まで）



52. 活発に遊んだ後に着替え



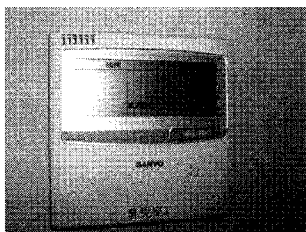
53. 触れ合いの時間



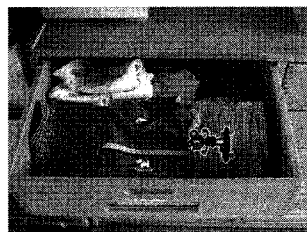
54. ジブンデ！の気持ちを援助する



55. イヤイヤ！の対応



56. 室温の調整



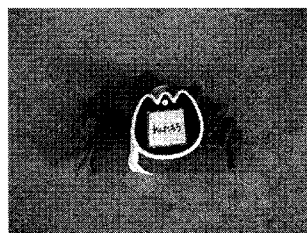
57. 衣服の保管



58. 汚れ物の引き出し



59. 着替えのコーナーの配置



60. 着替え一式をまとめる



61. 衣服の選び方



62. 衣服の調整



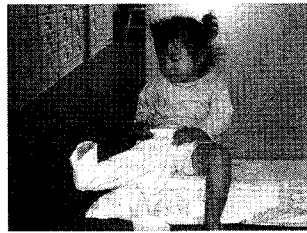
63. 昼寝の衣服



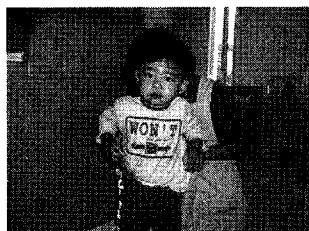
64. 一人一人に合った調節



65. 着せ過ぎは避ける



66. ボタンやパンツの場合



67. ズボンを脱ぐ



68. 片方ずつ脱ぐ



69. 衣服には表裏がある



70. ズボンの前後



71. 片方ずつ入れる



72. 両足を入れたら立ち上がる



73. ズボンを上に引く



74. 気持ちがいいわ



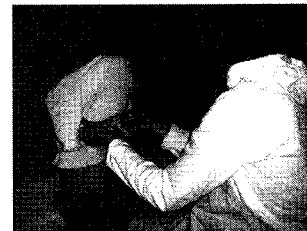
75. かぶりものの上着を脱ぐ



76. 頭を抜く



77. 衣服には表裏がある



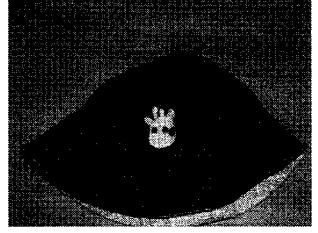
78. かぶりものの衣類は頭から



79. 袖に手を通す



80. 鏡に映して確認



81. 帽子をかぶる



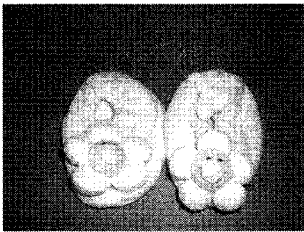
82. ゴムの場所の確認



83. 鏡に映して確認



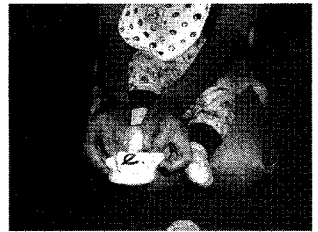
84. 楽しい外出



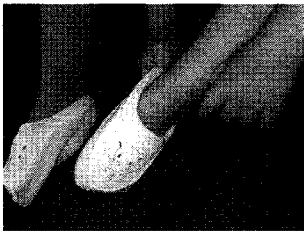
85. 靴下を履く



86. 保育者の膝の上で



87. つま先を入れる



88. かかとを入れる



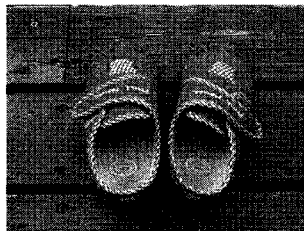
89. 上手に出来たね



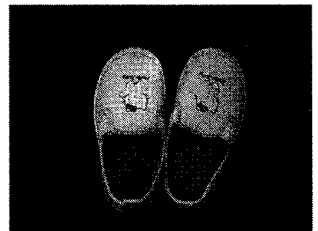
90. 靴は大好き



91. わたしの靴



92. 適した靴



93. 避けたい靴



94. 靴箱



95. 靴箱に工夫



96. 履く台, 脱ぐ台



97. 靴を履く



98. 左右を揃える



99. つま先を入れる



100. かかとを入れる



101. マジックテープ



102. 上手に出来た!



103. 靴を脱ぐ



104. 指を入れて



105. スポン!



106. 両手に持ってチョンチョン



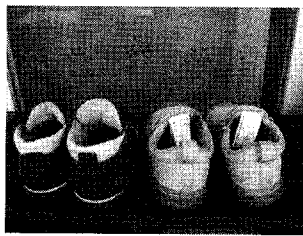
107. 靴のお家



108. 靴箱の混乱



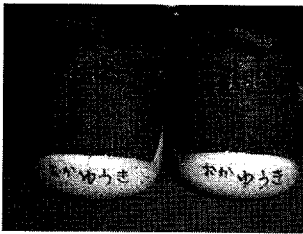
109. くつがない！



110. 2つの靴



111. 成長に合った衣服・靴



112. 靴の背には名前



113. 週末の持ち帰り

『ゾーン2：安全基地で興味を広げるゾーン』の説明文

衣服の着脱を促し、手伝う。靴の着脱を促し、手伝う。(1歳3か月から3歳頃まで)

<基本的な考え方>

- 52 「活発に遊んだ後に着替え」①汚れることを忘れて、健康的で活発に過ごすことはもちろん大切である。その後子ども自身が「いっぱい遊んだ後はおきかえね」「きれいになってきもちがいい」と心地よさを感じることで、徐々に清潔の習慣を身に付けるようにすることが大切である。②汚れた不快な状態が長く続くことは避けたい。汚れても気付かないようになる。
- 53 「触れ合いの時間」①着替えは一人一人の子どもとの大切な触れ合いの時間であると捉え、楽しく丁寧に対応していく。②衣服の色や図柄に興味を広げていけるように声をかける。③着替えの技術を教えるだけでなく、着替えの時に心・気持ちを共有出来るように誘う。稀に保育者に言われても、足を上げようとしなかったり、手を通そうとせずに人形のようにしている子どもには、心を動かす呼びかけをする。対象児には他の発達も見直す事が必要である。
- 54 「ジブンデ！の気持ちを援助する」①興味が広がり、身辺処理も「ジブンデ」と言い、したがるようになる。②保育者の主導で着替えるのではなく、「やってみたい」という気持ちを大切に受け止めていく。③子どもが自分でしようとするのを、焦らせずに励まし、さりげなく援助したり、褒めるなどしながら「自分でできた」という達成感や満足感を味わえるよ

うにする。

- 55 「イヤイヤ!の対応」①この時期「イヤ」が多い時期であり、着替えを誘っても嫌がることがよくある。無理強いせず、衣服を選ばせるなどしながら、楽しい着替えの演出を行う。
- ②遊びの楽しかった気持ちを着替えまでもっていくように「何をしてあそんだの?」など声を掛け、楽しさを共有しながら着替えに入っていく。
- ③どの色にするなどと衣服を選ぶことで着衣の楽しさを広げていく。

<環境の設定>

- 56 「室温の調整」①裸になっても寒くない室温にしておく。
- 57 「衣服の保管」8の①②③④と同じ。
- 58 「汚れ物の引き出し」9の①②③④⑤と同じ。
- 59 「着替えのコーナーの配置」①保育室の1角にコーナーを設定する。②コーナーは他児の遊んでいる姿やおもちゃが見えない所に設定する。落ち着いて着替えに集中出来る場所が望まれる。③衣服を揃えたり、しまったり、と保育者の動きを減らすことで、子どもが落ち着いた着替えの場となる。④引き出しやロッカーの側に場を設定する。⑤オープンなロッカーはその中身が何時も保育室から丸見えで煩雑な環境になる。子どもが過ごす保育室は食事や遊びなど様々な生活の場であることから、コーナーはクロックのように設定する。
- 60 「着替え一式をまとめる」①着替えの度にタンスから衣服を取り出し、揃えるのではなく、外遊びの後の必ず行う着替えなどは、1式ゴムでまとめておき、入室のテラスなどに揃えておくと、ゆったりと子どもに対応でき、余裕が生まれ触れ合いのひとつときとなる。

<援助の方法>

- 61 「衣服の選び方」①洗濯がしやすく、清潔に保てる衣服であること。②活動しやすいゆとりと伸縮性のあるもの。③成長に沿ったもので、着脱の方法がシンプルであるもの。④ズボンはウエストがゴムのもので、伸縮性のあるもの。上着はかぶるものか、前開きでボタンなどが止めやすいもの。⑤子どもが自分で着替えやすいように、ボタンやファスナーがなく、襟ぐりの広いものがかぶりやすい。上半身と下半身に分かれた衣服で、上下の繋ぎのものは子ども自身が着替えることは難しい。⑥春秋の衣服はベストやカーディガン、薄手の長袖などで調整する。⑦夏の衣服はランニングやキャミソールなど肩の出るものはエアコンの効いた室内では冷えやすい。戸外では紫外線を浴びやすいので避ける。⑧冬はジャンパーやコートなど外遊びの時の衣服を用意してもらう。
- 62 「衣服の調節」①活動に応じた衣服にする。②戸外と室内に温度差があるときは、上着を1枚着脱することで調整する。
- 63 「昼寝の衣服」①午睡中は布団を掛けることなどから、発汗しやすい。午睡時は薄手の木綿素材のものを、1枚着る程度にする。
- 64 「一人一人に合った調節」①一人一人に合った衣服の調節を行う。②発汗しやすい、冷えやすい、風邪気味、皮膚アレルギーがある、かぶれやすい、など子どもの体質や体調は様々

である。調節はその子どもの表情などを観察し行う。

- 65 「着せすぎは避ける」①手足が冷たくても、顔色がよく、元気に活動していれば、直ぐに着せずに様子を見る。②子どもの背中に手を入れ、汗ばんでいると着せすぎであると判断する。③厚手の衣服を少ない枚数着るよりも、薄いものを重ねた方が、体の動きの邪魔にならず、また調節しやすい。④衣服を着せすぎると、子どもの動きを妨げやすく、気温の変化に適応する力が育たない。むやみに厚着にするのは避ける。
- 66 「ズボンやパンツの場合」①着替えの自立を促すためには、着衣することよりも、脱ぐことから始める。②向かい合って援助するよりは、子どもの背後からそっと援助すると、保育者が子どもの視野に入らず、「ジブンデデキタ」という満足感を味わえる。
- 67 「ズボンを脱ぐ」①「おズボンは自分で脱げるかな？」と声を掛け誘う。②「お父さん指を入れて脱ぎ脱ぎしよう！」とウエストのゴムに親指をいれ、下に力をいれることを保育者が示し、誘う。③尻にひっかかっている場合は、さりげなく後ろを下ろす援助をする。
- 68 「片足ずつ脱ぐ」①ズボンの足の部分は片方ずつ引くように脱ぐ。②保育者の膝に座ったり、安定した台に座って脱ぐと体が安定し、手先に集中しやすい。
- 69 「衣服には表裏がある」①履く場合は、裏返しや丸まってしまった衣服は保育者が元にもどす。②衣服には表裏があることに気付かせることに繋げるようにする。
- 70 「ズボンの前後」①ズボン・パンツを履く時は、台に座るように促す。台の高さは15cmぐらい。②前後を確かめる。マークやアップリケなどを前のウエスト部分に付けておくと、子ども自身が確認しやすい。
- 71 「片足ずつ入れる」①ズボンのウエストの前の部分を両手で握り、片方の足をいれていく。「ズボンのトンネルから、あんよが出てくるかな？」など明るく言葉を掛け、興味を誘う。
- 72 「両足を入れたら立ち上がる」①両足がズボンに入り、足の先が裾から出たら、「あんよが出たら、はい立っち！」とその都度声を掛け、ウエストを引っ張りながら立ち上がる。援助をする度に同じ言葉を掛けることで子どもは言葉と動作を理解するようになる。②特に長ズボンの場合、裾から足が出ていないと、立ち上がった時、踏んでしまい履けない。ズボンを自分で履く最初の経験は半ズボンやパンツで行うと、達成感を感じることとなる。
- 73 「ズボンを上に引く」①ズボンを引っ張るのは、ウエストの前から、横へずらしながら引っ張ることを教える。②尻に引っ掛かっている場合は、保育者がさりげなく引き上げる。「ギュッとひっぱってごらん」「ギュッギュッね」など声を掛けながら行う。
- 74 「気持ちがいいね」①「上手に履けたね」「きれいになっていい気持ち」など保育者が手直しをしながら褒める。②着替えのコーナーには姿見の鏡があると子ども自身が履けたことを確認できる。③上着の始末をしたり、ウエストのゴムの捻れを直すことは子ども自身では無理である。大人が褒めながらさり気ない援助が必要である。
- 75 「かぶり物の上着を脱ぐ」①上着はズボンと同様脱ぐことから体験する。②保育者が片方の

袖の先を引っ張って「おてていないいいないばあ」と袖の中で腕を縮めることを促す。③両手を身ごろに引き入れる。

76 「頭を抜く」①身ごろの中の手を上着の裾を持つように促し、「いないいいないばあだよ」と頭を襟から抜くことを勧める。②ボタンやスナップなどが襟ぐりに付いていないかを保育者は確認し、事前にさり気なく外しておく。③髪の毛を結んでいる場合は、引っ掛かって痛みを感じるようになる。襟ぐりがきつい場合はその部分だけは保育者が手伝い、無理のないようにする。④頭を潜る時は視野がなくなり不安になるため、必ず「いないいいない」「〇〇ちゃんの頭でておいで」など声を聞かせるようにする。

77 「衣服には表裏がある」①「じょうずに脱げたね」など褒めながら、裏返しや丸まった上着を表に返す。「お昼寝起きたらまた着ようね」など言葉を掛け、衣服に表裏があること、脱ぎっぱなしにしないこと、次に着る時の準備であることを告げ、そのしぐさを見せるようにする。

78 「かぶり物の着衣は頭から」①上着の肩の所を両手で持ち体に当てる。衣服の前後、上下、表裏の確認を子どもと一緒にする。いずれ自分自身で着ようとする場合の大切なしぐさの1つである。②背中の裾の部分を持ち、胴の部分のトンネルに頭を入れるように促す。③保育者は事前にボタンやスナップが外れているかを確認しておく。④髪の毛や髪止めが引っ掛からないように保育者はそっと手伝う。

79 「袖に手を通す」①頭をしっかりと出してから、握りしめた手を袖に通すように声を掛ける。「グーのおてて出てくるかな?」「お袖のトンネルグーでパンチ」など明るくリズムカルに言い、楽しさを加える。②保育者は袖口を軽く引っ張っておくと、襟ぐりなどに手がでない。③胴から袖に手首を入れる際、肘を縮めながら子ども自身が袖の入り口を探すようにする。肘の部分に保育者は手を添えると、手首を動かして袖のトンネルを探し出す。④袖に手を通すことだけを進めると、子どもの手首を引っ張ったり、捻ることとなるので注意する。

「NHK-TV おかあさんといっしょ(上着をきる): タンタカターンたんけんだ」

80 「鏡に映して確認」①ボタンやファスナーが付いている場合は保育者が行う。また子どもが興味を示しているときは、その意欲がそげないようにさり気ない援助で満足できるようにする。②上手に着たことを鏡に映しながら褒め満足感を倍增できるようにする。③リボンやひもは保育者が結ぶ。

81 「帽子をかぶる」①帽子には前後があることを知らせ、前が分かりやすいようにマークを表裏の前の部分に付ける。

82 「ゴムの場所の確認」①両手で帽子を持ち、内側からのゴムを垂らす。②左右の帽子のひさしを持ち、ゴムが顔の前に垂れるようにかぶる。

83 「鏡に映して確認」①かぶった帽子の位置を鏡を見ながら確認し調整をする。②ゴムをあごに掛ける。ゴムの状態がきつすぎないか、弛んでいないかを保育者はこまめに確認しておく。

- 84 「楽しい外出」①帽子をかぶることは大好きな外出を意味するため、子どもの喜びの行為となる。楽しい雰囲気ですぐの習慣を援助する。
- 85 「靴下を履く」①靴下は左右の2つがあることを話す。「くつした1つ2つ。あんよも1つ2つ」など保育者の膝の上で、触れ合いながら話すと楽しくなる。②保育者は左右の違いのある物は左右を確認、つま先が前方に、かかとが手前になっているか確認。
- 86 「保育者の膝の上で」①保育者の膝の上は子どもの手の動きに保育者の手の動きを添えることが出来、援助が自然となる。保育者の手の動き、指の動きが子どもに伝わり、しぐさを伝えることとなる。
- 87 「つま先を入れる」①両手の親指を入れ、靴下を左右に広げつま先を入れやすくする。
「NHK-TV おかあさんといっしょ(靴下をはく)：くつしたオバケ」
- 88 「かかとを入れる」①かかとまで入るように引き上げる。長い靴下の場合はつま先に入れ、かかとを合わせた後、上に上げることを伝える。
- 89 「上手にできたね」①子どもは靴下を脱ぐことは、つま先を引っ張ることで出来るため、靴下に興味を持っている。履くときのつま先とかかとの納める感覚を掴むと、得意になって着脱を行うので、自信に繋げる言葉を掛けていく。
- 90 「靴は大好き」①靴も帽子同様外出につながる行為であり、子どもが非常に意欲的に取り組む。こうした意欲を大切にしたい。②歩くこと、戸外に出ることは子どもは好きであり、靴も好きである。軽くて履きやすい靴を選びたい。
- 91 「わたしの靴」①身の回りの環境に興味を示し始め、自分の靴と靴箱を認識出来るようになるとそれらを触ったり、出し入れをしたり頻繁にするようになる。靴箱に自分のマークを貼ると、「○○ちゃんの」「じぶんで」などとマークと自分と靴のマッチングを楽しむ。その楽しさをその都度広げていくと片付けの生活習慣につながる体験となる。②靴は靴下と同様左右2つある。「おくつが1つ2つ、あんよも1つ2つ」など楽しく伝え、2つをいつも一緒にしておくことを伝える。③「○○ちゃんのおくつはどこかな？」など声を掛けると、喜んで自ら靴を運び履こうとする。
- 92 「適した靴」①キャンパス地や柔らかい人工皮革素材のものがいい。②かかとのない平らな靴底で、弾力性と滑りにくい物がいい。③つま先は広く、かかとの成形がしっかりしているもの。④全体に靴の高さがあり、かかとは5から10ミリ上がっているもの。④足の大きさに合わせて調節自在なマジックベルトのあるもの。
- 93 「避けたい靴」①ひもで縛るもの。②大きすぎるもの。③表面がコーティングされている素材やビニール素材のものは通気性が悪い。④かかとが高すぎる靴は靴の中で足が滑りやすく、歩行の邪魔になる。
- 94 「靴箱」①子どもが出し入れしやすい高さで、個別のもの。
- 95 「靴箱の工夫」①一人一人の靴箱にその子どものマークと名前を貼り、大人も子どもも分かるようにする。②かかとが表に来るように入れると靴のかかとに書かれた名前が確認しや

すい。

- 96 「履く台、脱ぐ台」①子どもが落ち着いて、両手を使って、無理のない姿勢で履くための台を置く。高さは15センチ(大人の膝に座った高さ)。②クラス全体で戸外にでる時などのために広めの台が必要。
- 97 「靴を履く」①靴は左右を片手で一緒に持ち、静かに運ぶ。
- 98 「左右を揃える」①左右が分かりやすいように2つの靴の接点となる部分にマークを付けると、子どもに左右が逆になっていないことが分かりやすい。
- 99 「つま先を入れる」①座って片足ずつつま先から入れる。保育者が靴下の時同様靴を横に広げながら誘う。
- 100 「かかとを入れる」①「おかあさん指とお兄さん指をかかとに入れてギュッギュッスポン」など力を手の指と足のかかとに加えることを教える。②かかとにループを付ければ、ループに指をいれて引っ張るとやりやすい。
- 101 「マジックテープ」①子どもはマジックテープを好む。「ぴったんこ」など声を添える。
②靴の内側のみみの部分が折れ曲がっていないかを保育者は確認する。
- 102 「上手に出来た」①「じょうずにできたね」など褒めたり、左右のマークが「ピタッコン」など声を掛けながら子ども自身が確認出来るようにする。
- 103 「靴を脱ぐ」①台の上に座る。②マジックテープがあれば「ビリビリしよう」とはがすことを誘う。「NHK-TV おかあさんといっしょ(靴をぬぐ)：くつのきょうだい」
- 104 「指を入れて」①くるぶしの所に親指を入れて、「お父さん指がんばれ!」「ぐーとひっぱろうね」など声を掛けながら靴を押さええながら、かかとを上げさせる。②かかとにループが付いていると引っ張りやすい。
- 105 「スポン!」①かかとの次がつま先まで抜き取る。「スッポンしよう」など声を掛ける。
- 106 「両方に持ってチョンチョン」①両方が脱げたら左右を揃えて持つ。床から10cm位持ち上げながら靴の先を「チョンチョン」と泥を落とすしぐさをする。
- 107 「靴のお家」①「〇〇ちゃんの靴のお家にバイバイ」などと言いながら、自分の靴箱に片付けることを促す。
- <スタッフ間の連携>
- 108 「靴箱の混乱」①靴箱の名前やシールがはずれていないかを確認する。②靴箱の上段は背の高い子どもが使用する。③靴箱の前で子どもが大勢で混乱しないように、戸外に出る場合は順次保育室から送り出し、靴箱の側に他の保育者が待機し、靴の着脱の援助が出来るようにする。
- 109 「くつがない!」①靴が見当たらない場合はその日の内に対応する。子どもも保護者も保育士も翌日になるとますます探し出せない。
- 110 「2つの靴」①園庭に出る場所と登園してくる場所が違う場合は2つの靴箱を用意し、保護者に靴を2つ準備してもらう。

<家庭との連携>

- 111 「成長に合った衣服・靴」46の①②③と64の⑤⑥⑦⑧と同じ。⑧遊びやすい靴, 着脱しやすい靴などこの時期に合った靴を準備してもらおう。⑨靴の大きさ, 特に着脱がしにくくなった小さくなった靴などは, その都度保護者に知らせる。
- 112 「靴の背には名前」①分かりやすいように靴には名前を書いてもらう。
- 113 「週末の持ち帰り」①週末に持ち帰り, 家庭で洗ってもらう。

<ゾーン3：自分で考え自分でできるゾーン>

自分で上着を着る, ボタンを掛ける, 上着を脱ぐ, たたむ (3歳から就学まで)



114. 遊び感覚で着脱の習慣



115. じっくりと取り組む



116. 衣服で自分を発見



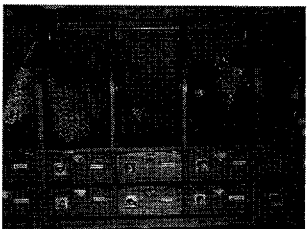
117. 頭と指を使う体操



118. TPOに合った衣服



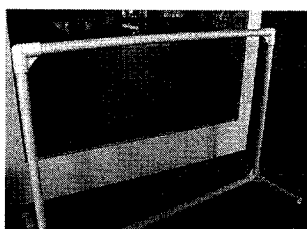
119. 衣服を汚さない配慮



120. 自分で着替えをする場



121. 引き出しとロッカー



122. コート掛け



123. 汚れた衣服



124. 遊びに広げる場



125. 任せっきりでなく見守る



126. 上着のボタン



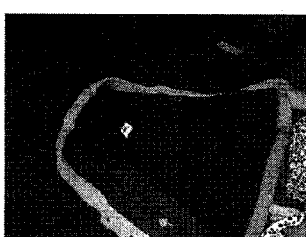
127. ボタンは下からはめる



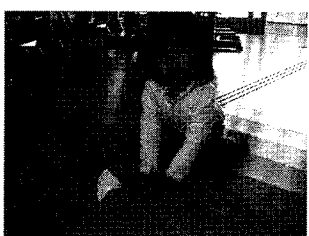
128. ボタン留めに誘う



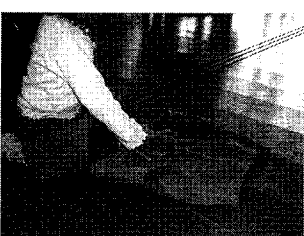
129. 二人羽織でボタン留め



130. ジブンデと付き合う



131. 上着をたたむ



132. 袖を折る



133. 袖を持ってピットンコ



134. コートをかける



135. ハンガーにかける



136. 衣服の選び方



137. 「似合う? これとこれ合う?」



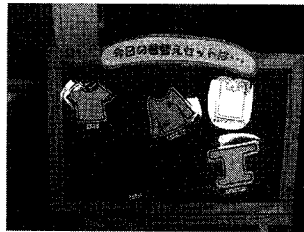
138. ジブンデを大切に



139. 時間のかかりすぎには援助を



140. 男と女の色?



141. 衣服の目安ボード

『ゾーン3：自分で考え自分でできるゾーン』の説明文

自分で上着を着る, ボタンを掛ける, 上着を脱ぐ, たたむ (3歳から6歳児まで)

<基本的な考え方>

- 114 「遊び感覚で着脱の習慣」①着脱の習慣は大人が丁寧に言葉としぐさを伝えることと, 着衣だけで留めたり外したりする体験をするのではなく, 活動の中に様々な楽しく興味のある体験を組み入れることで遊び感覚で身に付く。②年少児の着替えの手伝いや, 片づけの手伝いを喜んで出来るように誘い, 気配りの出来る体験を大切にする。
- 115 「じっくりと取り組む」①子どもが自分でやりたい, やったら出来たといった達成感を味わうためには, 大人がじっくりと接していくことが求められる。
- 116 「衣服で自分を発見」①着脱の行為は衣服の好み, その子らしさ, 受け継がれる文化など自己表現するものである。ままごとや変身ごっこ, なりきり遊び, 劇遊びなど身につける楽しさを体験することで, 着脱の行為を体得するだけでなく, 衣服を選ぶ自己表現の楽しさにつなげたい。
- 117 「頭と指を使う体験」①手先が自由に使えるようになると, ボタンやスナップ, ファスナーに興味を示す時期がくる。②ボタンをはめることでつながる, ファスナーで開く閉じるなど子どもの興味をより引き出す体験にもっていきたい。③靴下は2つ, 帽子は1つ, 袖は2本など体と衣服の関係のマッチングや, 衣服を折り畳む半分, その半分など身近な図形や

形式を体験していきたい。

- 118 「TPOにあった衣服」①園の生活の時の服装は、活動的で伸縮性のある素材で、清潔に保てるものを選ぶが、老人施設等の訪問や観劇・音楽会など園外に出かける場合は、少し新たまった服装をする体験も取り入れるようにする。②在園児として卒園式に参加する場合も、お祝いの会場に入る配慮などが理解できるように身繕いを薦める。③日常と非日常を服装をあらためることで理解できるようにする。
- 119 「衣服を汚さない配慮」①手を洗うときに袖口を濡らさないために袖を上げること。絵の具を使用するときにスモックを着ること。靴を脱いだら軽く叩いて泥を落とすこと。これらの体験を日常から積み重ね、大切にしていく。

<環境の設定>

- 120 「自分で着替えをする場」①着替えの引き出しやロッカーにはその子どものマークと名前、顔写真を貼り、自分の場所が分かるようにする。②着替えのロッカーは保育室から丸見えの状態になるのを避け、着替え専用の場所を作るようにする。すると保育室が煩雑にならない。③元来着替えの場はプライベートなコーナーである。幼児期から囲われたコーナーで着替えたい。④自分の着替えの様子に見える鏡を置く。
- 121 「引き出しとロッカー」①引き出しの中は衣服をたたんでしまう。②衣類の種類別にまとめ、選びやすく、取り出しやすいように並べる。③家庭との連携を図りながら、枚数や種類を決めていく。④引き出しは定期的に消毒し、清潔を保つ。⑤ロッカーは登園バッグなどをフックでかける。
- 122 「コートかけ」①冬期のコートや雨の日のレインコートなどをハンガーにかけるポールを準備する。
- 123 「汚れた衣服」①汚れた衣服は脱いだ後ビニール袋に入れ、個別のバックにしまう。②保育者の片付けるしぐさを見て、次第に自分自身で出来るように誘う。
- 124 「遊びに広げる場」①人形の服の着せ替えや、ボタンを使った遊び、スナップやファスナーを使った遊びなど準備し、遊び感覚で体験できるようにする。

<援助の方法>

- 125 「任せっきりでなく見守る」①子どもは自分で出来る部分が多くなってくるが、保育者は任せっきりにせず、側で見守る。②その都度の片づけが次の着脱がスムーズにいくための準備であることを子どもと確認しあう。③上着を脱ぐ時の見守りは、ボタンなどを付けたまま脱ごうとしていないか、袖や襟が引っ掛かっていないか、脱いだ衣服が裏返しや丸まっていないかなど。④着るときの見守りは、衣服の前後、裏表が逆になっていないか、袖や襟が引っ掛かっていないか、ボタンやファスナーが留めてあるかなど。
- 126 「上着のボタン」①着替えに援助が必要な場合は、上着を覆ってから保育者の膝に座らせながら行う。②保育者の温もりを感じながら安心して着脱をしようとする。③保育者が後ろから援助を二人羽織のようにすることで、2人の共同作業でボタンを留めたりすることが出

来、自分でやったという気持ちになる。④保育者と子どもの手の向きが同じ方向である。保育者の手の動きを見ながらしぐさをまねようとする。また子どもの手に添える形で保育者は援助できる。

127 「ボタンは下からはめる」①はめやすい一番下のボタンからはめていく。

128 「ボタン留めに誘う」①まだボタンに興味がない子どもには、保育者が穴からボタンを覗かせながら、「ボタンちゃんがお顔を出しているよ」「ボタンちゃんこんにちは」などと興味が沸くような言葉をかける。②保育者がボタンを半分出しておき、子どもが摘んで引っ張り出す。その時保育者は裏でボタンを押すようにすると子どもは自分でできたことに満足する。

129 「二人羽織でボタン留め」①膝の上では保育者と子どもの手の向きが同じ方向である。保育者の手の動きを見ながらしぐさをまねようとする。また子どもの手に添える形で保育者は援助できる。

130 「ジブンデと付き合う」①子どもが自分でやりたいと思っても、上手くできない時は、時間がかかっても焦らず、せかさず、さり気ない援助を行う。

131 「上着をたたむ」①衣服をたたむことは、子どもにとって折り紙を折ることと同じ感覚である。②服の前後、表裏を確認し、床の上に広げる。「NHK-TV おかあさんといっしょ（洋服をたたむ）：パジャマのサンドイッチ」

132 「袖を折る」①お袖をたたもう。○○ちゃんのおててはこっち！など声を掛けながらたたむように促す。

133 「裾をもってピタンコ」①裾を両手で持って「半分にピタンコ」と折り紙の時に掛ける言葉を言うと楽しさが膨らむ。②折り上がった上着をそっと下から両手で持ち上げ、棚や引き出しにしまう。

134 「コートをはかける」①かさばるコートはハンガーにかけ、コート掛けに吊すと整理しやすい。

135 「ハンガーにかける」①コートをハンガーにかける手順を示しておくで登園の時親子で作業が出来るようになる。

136 「衣服の選び方」①清潔であること。活動しやすいこと。伸縮性があること。②子ども自身が着脱しやすいように、小さなボタンや開閉しにくいファスナーなどがないもの。③襟ぐりが広く伸縮性があり、ウエストはゴムなどひっぱりながら着脱できるもの。④ボタンは平たくて大きいもの、ボタンホールは大きめに開いているもの。⑤この頃の子どもは活発によく動き、汗もよくかく。また体温も大人に比べて高いので、衣服は大人より1枚少ない程度が目安である。

137 「似合う？ これとこれ合う？」①色を合わせる、柄を合わせる、素材を合わせるなど衣服のコーディネートする経験を楽しむようにする。

<スタッフ間の連携>

138 「ジブンデを大切に」①衣服は好みをはっきりする。好みの服を自ら着脱している時は、

「よく似合うね・素敵だよ」など子どもの主体性を褒め、自信をつけるようにする。

- 139 「時間のかかりすぎには援助を」①着替えながら他の遊びをしたり、とりとめのない時間を掛けている場合は、着替えを煩わしいものと感じやすい。着脱の集中出来る時間を越えた場合は援助し、次の活動に入れるようにする。②手作りおもちゃなどで着脱の体験が出来るようにする。

<家庭との連携>

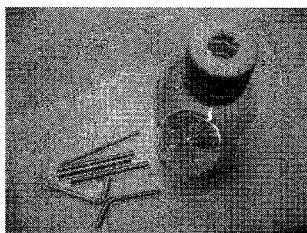
- 140 「男と女の色？」①衣服の好みは自己表現そのものである。赤やピンクは女の子とか緑と青は男の子の色などと男女の固定概念で判断せずに、色彩やデザインも子どもの豊かな体験と捉えていくことを、伝えていく。
- 141 「衣服の目安ボード」①保育者が考えるその日の標準的な衣服を掲示する。

8 遊び感覚を体験する着脱遊び

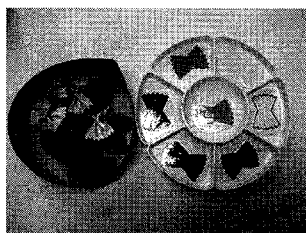
子どもが衣服の着脱を自ら行おうとせず、大人に依存していることが多い。

ボタン・ホック留めや紐を通す、紐を結ぶ、紐を編むなどの所作を、楽しく、魅力的に、興味関心を誘う教材研究を筆者は長年行ってきた。その集大成が「NHK-TV いないいいないばあ」のキャラクターによる生活教材6回シリーズである¹²⁾。

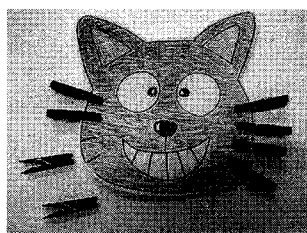
ボタン・ホック・ファスナー・紐などは、着脱衣の時に自分の衣服やくつなどで行うのは、子どもの手の大きさに合ったものでない場合が多く、その所作を行う時の姿勢や方向に無理が生じることが多い。そこで子どもの目と手の高さに置き、教具・教材として創作することで、子どもの発達の敏感期に多様でしかも豊かな体験遊びができるように考案し、保育現場で実践しているのが下記の写真の手作りおもちゃである。



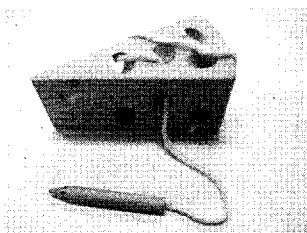
142. ストロー落とし



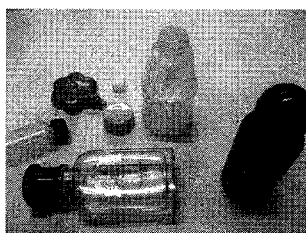
143. パスタ移し



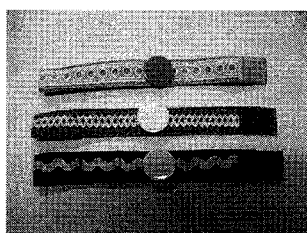
144. ピンチのひげ



145. ねずみとチーズ



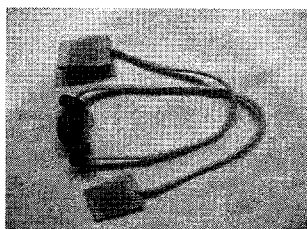
146. ピンのふた合わせ



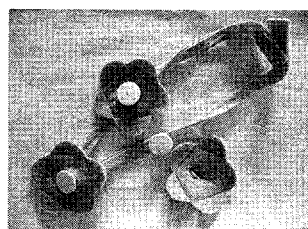
147. 腕時計



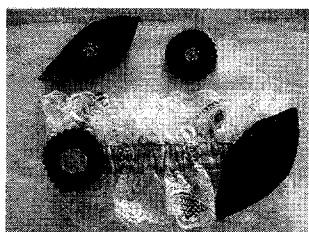
148. 買い物バッグ



149. ネットレス



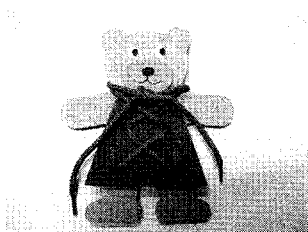
150. 花のネックレス



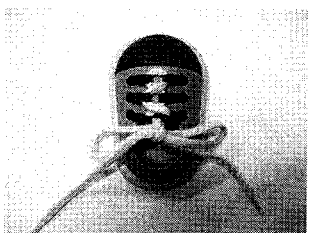
151. 花のかんむり



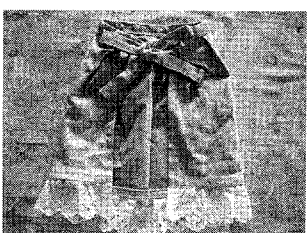
152. フェルトの輪つなぎ



153. 紐でお着替え



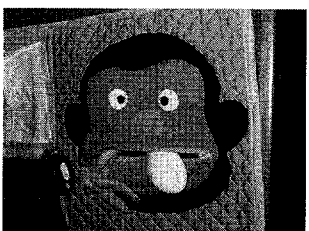
154. 靴の紐結び



155. ままごとのエプロン



156. 三つ編み



157. ファスナーの口

142 「ストロー落とし」①透明のペットボトルの蓋に穴を開け、ストローを指で摘んで中に入れる遊び。集中しストローを落とすと中が見えるので子どもは喜ぶ。

143 「パスタ移し」①パスタに色を付け、摘んで同じ色の所に移すマッチングの遊び。②パスタは落としたり、強く握ると割れるので、加減をして移す。

144 「ピンチのひげ」①洗濯ばさみのピンチは、親指と人差し指で摘みながら付けていく。②生活用品なので、子どもは非常に喜ぶ。

145 「ねずみとチーズ」①ヨーロッパに伝わる玩具。②ねずみがチーズを嚙り進んでいく。

- 146 「ビンのふた合わせ」①小瓶の蓋と本体を合わせる、マッチングの遊び。②蓋を指先で回すことが楽しい。
- 147 「腕時計」①マジックテープで留めたり外したりする時計は、子どもの人気おもちゃ。②色を数種類準備するとチョイスすることも、楽しみの1つとなる。
- 148 「買い物バッグ」①ままごと遊びの必需品はお出かけバック。②1つボタンがあることで開けたり閉めたりを楽しむ。
- 149 「ネックレス」①マジックテープで留めたり外したりするネックレスはおしゃれ感覚を楽しむ、成りきり遊び。
- 150 「花のネックレス」①フェルトの花をボタンで付けて、マジックテープで留めるネックレス。②着ている服に合わせて色を選ぶことを楽しむ。
- 151 「花のかんむり」①フェルトの花と葉をかんむりにホックで付け、成りきり遊びを楽しむ。②お姫様になる必需品として楽しむ。
- 152 「フェルトの輪つなぎ」①フェルトのベルトの一方にボタン、もう片方にボタンホールを縫製し、輪つなぎが出来る。②創意工夫で多様に遊びが展開される。
- 153 「紐でお着替え」①ヨーロッパの玩具。②身ごろに洋服を紐で結んで着せていく。
- 154 「靴の紐結び」①ヨーロッパの玩具。②木製の靴を紐で結ぶ遊び。③花結び・蝶結びなど楽しむ。
- 155 「ままごとのエプロン」①ままごととのキッチンでエプロンを付けるとママに変身。②蝶結びは友達同士結び合いをする。
- 156 「三つ編み」①3色の太い紐で編んでいく。
- 157 「ファスナーの口」①ゴリラの口の開閉がファスナーで、口の中に果物がどんどん入っていく。②ファスナーを開けたり閉めたり繰り返して楽しむ。

9 NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」で発信

これらの「衣服の着脱」のスタンダードを元に、NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」で平成18年4月から「生活あそびうた みてみて」が筆者監修で放映がスタートしている。7月現在すでに「上着をきる」「靴下をはく」「洋服をたたむ」「靴をぬぐ」の作詞、作曲、アニメーションの指導、監修者となり、育児文化として発信が始まっている。

本稿では歌詞及び楽譜で紹介することとする。これらの歌詞が作られてきたのは、写真1から141枚とその説明文章のアンダーライン部分を丁寧に拾い、イメージを番組ディレクターと共有することで歌とアニメーションを完成させた。これらは作詞：床屋かなぶん、作曲：濱田理恵、監修迫田圭子による「生活あそびうた」とネーミングし、基本的生活習慣の「衣服の着脱」のしぐさを、遊び感覚で子育て家庭に提供しようとするもので、育児文化の創造でありたいと願う筆者とNHKの新しい試みである。家庭の中に生活のしぐさの伝承がない今日、アニメーションと歌を合わせることで、保育の現場にその生活文化を現在も受け継ごうとしている専門職がいることをメディアを通して発信していきたいと考える。平成18年度は6曲を準備中である。

NHK 教育テレビ「おかあさんといっしょ」＜生活あそびうた みてみて＞

「上着をきる」

タンタカターン たんけんだ

作詞：床屋かなぶん

作曲：濱田理恵

監修：迫田圭子

タンタカターン たんけんだ
おなかのクマちゃん でかけたら
よーし ぼくも しゅっぱつさ

トンネルのなかは まっくらだ
のぞいてみるよ もぐってみるよ
なにかがむこうに みえてきた
いないいないばあー！

まだまだたんけん ヘビのトンネルだ
おててをゲーにして ニョロニョロ パンチ
おててをゲーにして ニョロニョロ パンチ
かっこよく きまったね
タンタカターン たんけんだ

「洋服をたたむ」

パジャマのサンドイッチ

作詞：床屋かなぶん

作曲：濱田理恵

監修：迫田圭子

パジャマのサンドイッチ つくろうよ

パジャマをゆかにひろげておいて
おそでをパターンと おりましょう
もひとつパターンと おりましょう

おそでをはさんで はんぶんこ
それからまたまた はんぶんこ

おつぎはズボンをはひろげましょう
ズボンもパターンとはんぶんこ
もひとつ はんぶんこ
またまたまたまた はんぶんこ

そーとかさねて
そーとおいて
パジャマのサンドイッチ できあがり

「靴をぬぐ」

くつのきょうだい

作詞：床屋かなぶん

作曲：濱田理恵

監修：迫田圭子

ぼくのともしち くつのきょうだい
はねる あるく スキップ はしる
いつも たのしく あそんでいるよ

「ただいま〜」っておうちに帰ると
まずはすわって ひとやすみ

かかとを ぐーっとぐーっと ひっぱると
スポーンってぬげたよ
かかとを ぐーっとぐーっと ひっぱると
スポーンってぬげたよ

かたてでもって チョンチョン チョンチョン
なかよくならんで まっててね

ぼくのともしち くつのきょうだい
またいっしょに でかけようね

「靴下をはく」

くつしたオバケ

作詞：床屋かなぶん

作曲：濱田理恵

監修：迫田圭子

Soprano

くつしたオバケが やっ てきた りひきでめらめら やっ てきた

ど ち がきだ つおまえより 「できかぬ」 お とう きん ゆ ひを

ぐー っといれて くちをとおき く あけちかお 「あーん」 あ

し で ギャー オバケは ギャー あ し で ギャー オバケは ギャー

だ け ど あれれれれ いたすらオバケ が とひだした ひ

ーっ ばって ギャー オバケは ギャー ひー ばって ギャー オバケは ギャー

くつしたオバケが めらったよ

10 まとめ

基本的生活習慣の「衣服の着脱」は前稿「排泄」の特徴である生理的欲求を満足したり、困難な状況を回避するために身につける習慣ではなく、文化的、精神的習慣の習得、つまり自分の心地よさ・好み、らしさを演出する力・見出す力を育むものである。この文化的・精神的習慣を身につけるには、大人の愛情とあたたかいお世話の「ゾーン1」で大人の援助を十分に受けた子どもが、大人に見守られているという安全基地を確保しながら「衣服の着脱」に興味を示していく「ゾーン2」へと進んでいく。「ゾーン2」では興味を広げ、遊び感覚で意欲がわくように、保育者は様々な演出をしていく。その保育の専門性の1つが写真の説明文に記したアンダーラインを基に生活あそびうたとそのしぐさをアニメーション化する創作である。もう1つは写真142～157までの創作手作りおもちゃを活用して、興味や楽しさを広げていく実践例をあげた。「ゾーン2」で意欲的に体験した子どもは、自分で考え、自分でできる「ゾーン3」へとステップアップしていく。「ゾーン1」から「ゾーン2」へと体験し「ゾーン3」へと歩んだ子どもは「衣服の着脱」の基本を体得することで、自分らしさを表現する工夫ができ、アイデンティティを次第に確立していく。また「ゾーン3」では他者への気付きをはじめ、片付けや整理などの生活環境の整備も自らの力で考え、行動する姿を浮き彫りにした。

生きる力を誘うためには「ゾーン1」から「ゾーン2」へ、そして「ゾーン3」へと歩む子どもに保育者は援助していくことであり、筆者が前稿で発表した図表1＜発達に沿った援助のゾーン＞が子どもの養育者、保育者の育児・保育の基本法則であり、生理的要因の生活習慣である「排泄篇」と同様生理的、精神的要因の生活習慣である「衣服の着脱篇」の生活習慣の習得に相通じるものであると考える。

参考文献等

- (1) 立正大学社会福祉学部紀要「人間の福祉」第19号 p 31～61『生きる力へ誘う保育士の援助のスタンダード化の実践研究「排泄篇」』2006年3月 迫田圭子著
- (2)(3)(4) 「幼児教育学の系譜：現代の子どもの生活技術」コレール社 1987年 谷田貝公昭著
- (3)(4) 「基本的生活習慣の発達基準：50年間の変化と現代の標準」家庭教育研究所紀要第9号小平記念家庭教育研究所 1987年 谷田貝公昭著
- (5) 「正しい暮らし方読本」福音館書店 1993年 五味太郎著
- (6) 「小児歯科臨床：手さばきの実態と復活の方策」東京臨床出版 2000年 谷田貝公昭著
- (7) イタリアの教育家マリア・モンテッソーリ (Maria Montessori 1870-1952)「モンテッソーリ教育の道」p 102 学苑社
- (8) アメリカの発達心理学者アーノルド・ルチウス・ゲゼル (Arnold Lucius Gesell 1880-1961)「文化適応 (acculturation)」「6歳までのしつけと子どもの自立」合同出版 2002年 谷田貝公昭監修
- (9) 厚生省児童家庭局1999年11月改訂「保育所保育指針第2章 子どもの発達2. 子ども自身の発達」

より

- (10) 茶々保育園（入間市）・茶々おおわだみなみ保育園（八千代市）・柿の木台保育園（横浜市）・iタワー花の森保育所（伊勢崎市）
- (11) コンピューターソフト「自園の保育システムへ運営編・お世話編・遊び編」CHS子育て文化研究所 2003年 迫田圭子監修